



学校便り

長崎市立日見中学校

第4号

令和6年5月16日

文責 校長 山本

【体育大会終了】

5月14日（火）、体育大会を実施しました。平日のお忙しい中、早朝から多くの保護者の皆様、来賓の皆様に体育大会を盛り上げていただきました。誠にありがとうございました。一人一人の走る姿や演技をする姿、学年種目に学級の仲間と協力して取り組む姿はとても真剣で、観る者を爽やかにしてくれました。また、この体育大会に迎えるにあたり、体育大会実行委員会や「ヨッシャこい！」ダンスリーダーのリーダーシップ、生徒による各係の仕事など、本校生徒の主体性や協働して取り組もうとするその思いや姿がいろんな場面で感じられ、今後の活動が楽しみになりました。



【次は長崎市中総体 6/8（土）～10（月）】

長崎市中総体まで約3週間となりました。部活動に所属する皆さんは、練習に熱が入っているものと思います。私が中高生の頃は「練習は本番のように。本番は練習のように。」と顧問の先生から言われてきましたし、私も教員になり部活動の顧問をするようになってからは、同じ言葉を使うようになりました。練習では本番のつもりで緊張感を持って取り組み、本番では緊張せずリラックスして戦いなさいという意味です。

もう一つ、こんな名文句があります。「勝ちに不思議の勝ちあり。負けに不思議の負けなし。」

プロ野球のヤクルトや阪神、楽天などで監督をし、2020年に亡くなられた野村克也さんが口癖のようにおっしゃっていました。皆さんは聞いたことがありますか。そもそも、平戸藩主の松浦静山（江戸時代中期から後期）という方が剣術書に書き表し、弟子たちにも語ってきた言葉だそうです。

なぜ勝ったのか思い当たらないような不思議な勝ちはあるが、負けるときは、負けるだけの理由が必ずあるということです。だとすれば、今の自分の、あるいはチームの弱点はどこなのかを分析し、その弱点から逃げずに克服していくことが勝ちにつながることであり、たとえ負けたとしても「悔いのない」試合になるのだらうと思います。

